三条小

自分の考えをもち、進んで表現する子供の育成

～伝え合う場を大切にした授業づくりを通して～

（３年計画１年次）

校長　　在家　正行

１　研究主題について

本校では、教育目標「自分をのばす」の達成に向け、教育活動全体を通して、自ら進んで自分の資質や能力を伸ばす児童の育成を目指している。

昨年度の教育課程編成会議において「与えられた課題に対しては、素直に真面目に取り組むことができるよさをもっているが、よい考えをもっていながら自信をもって話すことができない」という児童の実態が確認された。

昨年度は、同様の児童の実態に対し、「主体的に学ぶ」という観点で、問いをもたせる授業づくりに取り組み、導入場面において知りたい・やってみたいという意欲をもたせることができた。しかし、共有した学習課題に対して、自分の考えを伝えながら児童が主体となって課題解決する学習活動において先のような実態にあり、改善の必要がある。

そこで、頭・心・体つくりの側面から児童の資質や能力を伸ばし、全人的な発達・成長を実現したいと考え、学校目標を「自分で考え、課題解決する力をもった子供の育成」と設定し、頭つくりの重点施策「自分の考えや立場を明らかにする授業づくり」とした。

本研究を頭つくりの重点施策を具現するための取組と位置付け、研究主題を設定した。

２　研究のねらい

伝え合う場を大切にし、主体的に課題解決ができるような学習活動を工夫することにより、自分の考えをもち、進んで表現する子供を育成できることを授業実践を通して明らかにする。

３　研究仮説

伝え合う場や学習活動を工夫し、友達の考えのよさに共感する姿勢を大切にした授業づくりをすることにより、自分の考えをもち、進んで表現する子供を育成することができる。

４　研究内容

(1) 自分の考えを表現しようとする授業過程

ア　自分の考えをもつ時間や場を設定する。

・立場の表明　・立場の再表明　・自力解決　・考えをまとめる　等

イ　表現方法を指導する。

・話し方　・書き方　・ネームプレート　・トークトレーニング　・反応の仕方　等

ウ　表現する場を工夫する。

・ペア　・少人数グループ　・自由交流　・ゲーム的な活動　　等

エ　学習活動を工夫する。

・話し合い　・教え合い　・読み合い　・感想交流　　・共同制作　等

(2) 共感する力を高める指導

ア　自分の考えを安心して表現することができるように、友達の考えに共感する態度を育てる。

・友達の考えを受け止める　・友達の考えに反応する　・友達の考えのよさに気付く

５　研究の経過

⑴　研究仮説に基づく授業研究等

月	日	学年・授業者　等
６	２６	第１回授業研究【社会】（要請訪問） 授業者　３年３組　教諭　赤井理江 助言者　八戸市教育委員会　教育指導課 青木拓哉　主任指導主事 題材名「農家の仕事」
１０	２５	第２回授業研究【道徳】　授業者　２年２組　教諭　岩村恭也 題材名「のこぎり山の大ぶつ」
１１	２２	第３回授業研究【社会】　授業者　５年２組　教諭　河原木　怜奈 題材名「これからの工業生産とわたしたち」

⑵　一般研修

月	日	内容・講師・概要　等
５	２４	対話を生む学習活動について　講師　八戸学院大学　教授　木村　浩哉　先生
６	２８	AED 講習会　講師　三条小学校　養護教諭　安田　陽子　先生
１	１７	ネット情報モラルについて　講師　みらいクリエイド　代表　森　淑乃　先生

６　研究の成果

⑴　自分の考えをもつまでの様々な手立て（時間の確保、自力解決、発問、学習形態など）を工夫したことにより、自分の考えをもち、それを伝えようとする態度が育ってきた。

⑵　場の設定（ペア、少人数グループ、同じ立場のグループ等）を工夫したことにより、学習への参加意識が高まり、自分の考えを進んで表現する児童が増えた。また、子供同士の交流によって、安心して自分の考えを伝えたり友達の考えを楽しく聞いたりすることができた。

⑶　ネームプレートや赤白帽子、〇〇メーターなどで立場の表明をすることにより、一人一人がはっきりと学習課題を捉え、その後の学習に主体的に取り組むことができた。

７　研究の課題

⑴　自分の考えをもつことはできたが、進んで発表できない児童やどうやって表現してよいか分からない児童がいる。話すことが苦手な児童も自分の考えを十分に表現することができるように、様々な表現方法を試みていく必要がある。

⑵　自分の考えを表現することはできるが、友達の考えを聴いてさらに自分の考えをもつことや伝えることに課題がある。目的意識をもって聴くことや自分の考えと比べたり友達の考えに共感したりしながら聴く態度を育て、自分の考えを広げられるような学び合いを充実させたい。

（記入者　西村　悦子）